

「地域と共にある」より魅力的な学校へ！

志津川高校魅力化 プロジェクト 説明会

令和3年7月4日（日）
南三陸町企画課地方創生推進係

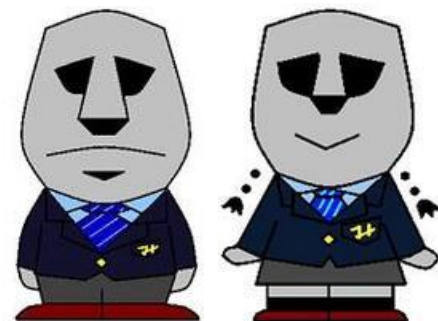
次 第

(1) 開 会

(2) 挨 拶 南三陸町 副町長 最知 明広
志津川高等学校 校 長 葛西 利樹

(3) 説 明 企画課地方創生推進係

(4) 質疑応答



高校魅力化ってなに？



生徒が高校での生活に魅力を感じているか、自分の学びに魅力を感じているか、自分自身に魅力を感じているか・・・

高校生活にも、学びにも、生徒自身にも、その魅力は必ずあるはずです。

しかし、それに気づかない。もしかしたら、ないと思い込んでいるのかもしれない・・・

気づく機会が用意されて、実際に気づけばどうなるか。

生徒の中で、魅力的なものに感じるとか、魅力的なものにしていこうという意識の変化が生じるのではないのでしょうか。

高校魅力化とは・・・

生徒がこれまで気づいていなかった様々な魅力

『日々の生活』

『地域』

『身近な他者』

『学ぶこと』

『自分』

気づき、知り、認識する

その認識を基に、まさに今！高校時代に
生徒は自分の将来に向けて取り組んでいきます。

もし、

- ✓ 大人が様々な魅力に気づく環境を整えてあげることが出来れば、
- ✓ 魅力に気づく機会さえ与えてあげることが出来れば…

子どもたちは無限に伸びます！

学校と地域が総力を結集して「魅力に気づく環境作り」に取り組んでいく！それが『高校魅力化』です！

そして、もう一つ…

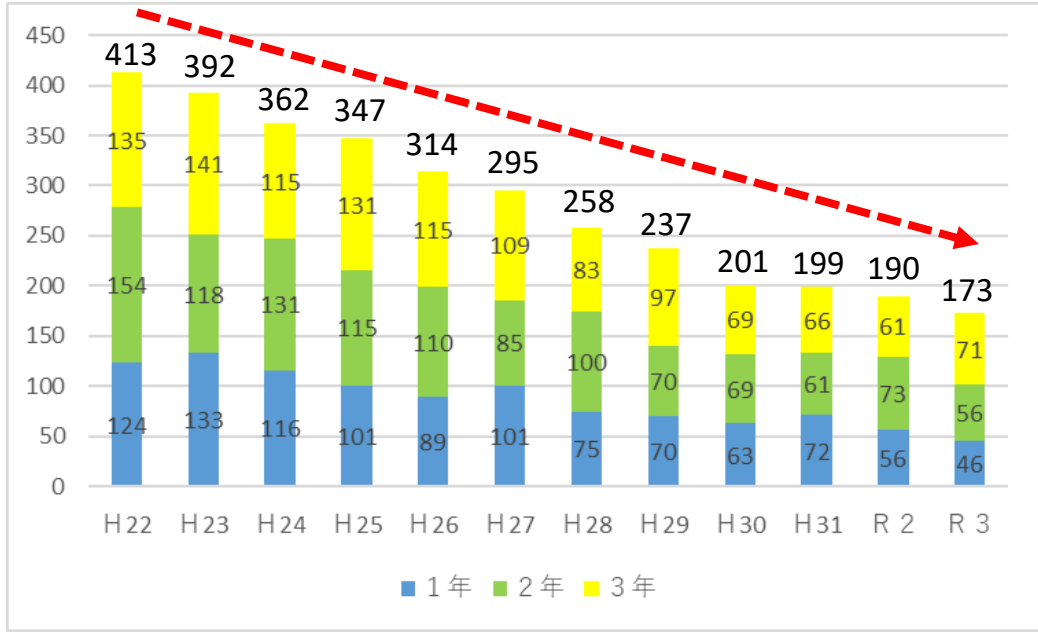
「高校魅力化」を語る時、「**そもそも学校が誰にとって魅力的なのか**」という視点を忘れてはいけません。

もちろん学校は生徒たちのものなので、まずは生徒たちにとって魅力的であることが大前提です。

しかし、**学校が地域と繋がっていくためには、地域にとっても魅力的な「気になる存在」であることが大切**であると考えています。

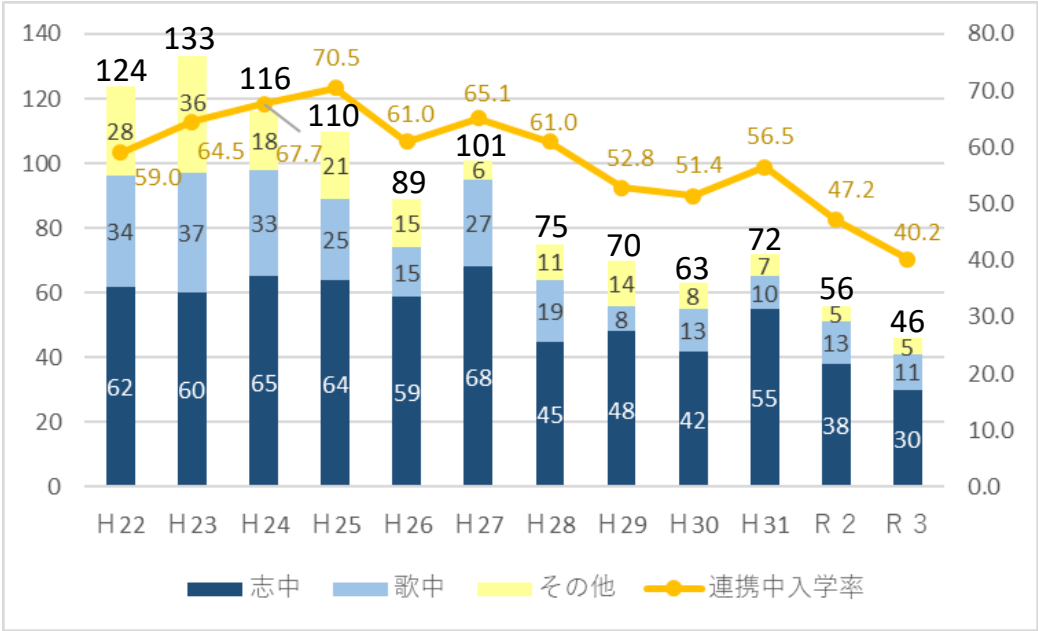
なぜ志津川高校の 魅力化に取り組むのか？





【志津川高校生徒数の推移】

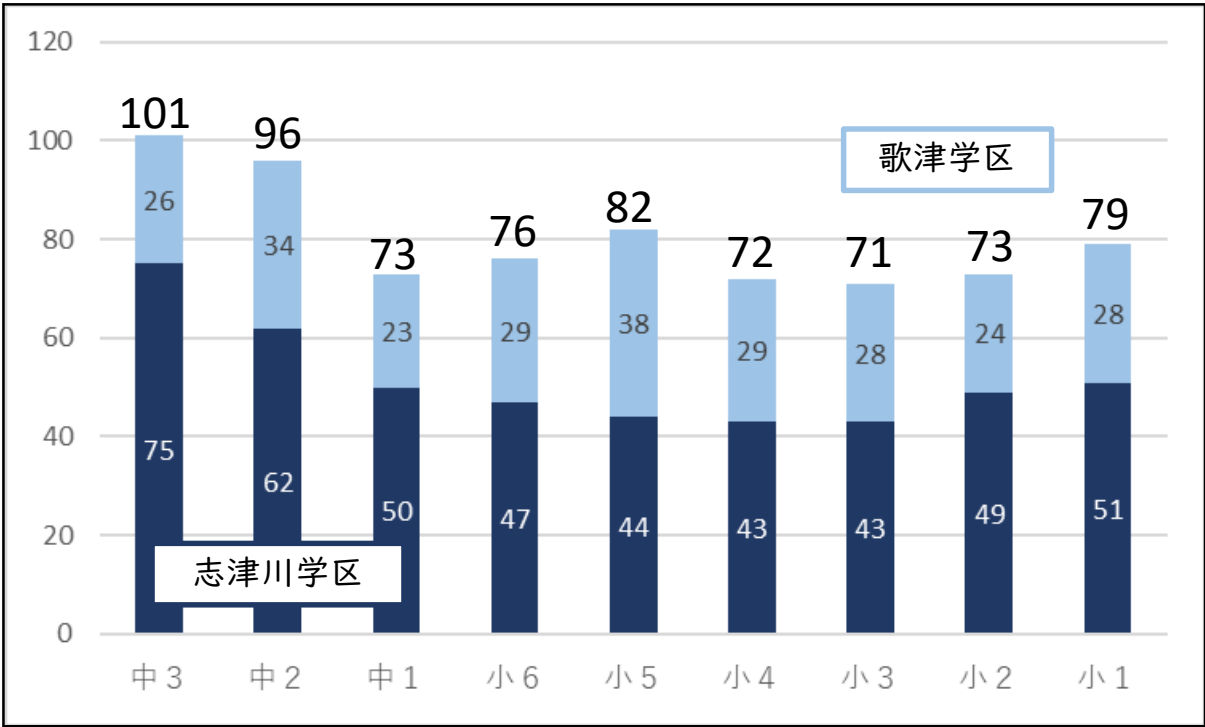
- ・現在の生徒数は10年前から半分以下となっています。
- ・令和3年度における学校全体の定員充足率は48%であり、半分以下となっています。現在の1、2年生の生徒数も非常に少なく、次年度以降も充足率50%を下回る可能性が高い状況です。



【志津川高校入学者数の推移】

- ・連携中学校から志津川高校への入学率は70%を超えていましたが、直近2年は50%を下回っている状況です。
- ・町内の児童数の減少に加え、連携中学校からの進学率の低下も相まって、1学年定員120名を大幅に下回る状況が常態化しています。

・ 町内の小中学校児童生徒数は中学 2 年生以降、 1 学年 100 人未満となっています。



小学校	志津川小	戸倉小	入谷小	伊里前小	名足小	計
1 年生	29	16	6	25	3	79
2 年生	26	14	9	17	7	73
3 年生	23	9	11	18	10	71
4 年生	26	8	9	20	9	72
5 年生	23	13	8	32	6	82
6 年生	28	8	11	20	9	76
全校	155	68	54	132	44	453

中学校	志津川中	歌津中	計
1 年生	50	23	73
2 年生	62	34	96
3 年生	75	26	101
全校	187	83	270

- ・ 第3期県立高校将来構想第1次実施計画（令和2年7月宮城県教育委員会）において再編等の考え方が示されています。（以下、要約、抜粋）

①基本的な考え方

- 全日制課程の適正な学校規模の目安を4～8学級（1学年）としています。
- 1学年3学級規模以下の本校及び分校については、速やかに再編の検討を進めます。
- また、適正規模の学校であっても、各地区における中学校卒業生数減少の状況を踏まえながら、再編等を検討します。

②現状で適正規模を下回る学校の取扱い

- 1学年2学級及び3学級規模の学校
 - ・ 在籍生徒数が収容定員の3分の2未満となった場合、3学級規模の学校にあっては学級減することを検討します。
 - ・ 2学級の学校にあっては、原則、募集停止することを検討します。
- 1学年1学級規模の学校
 - ・ 1学年1学級規模の学校であっても、在籍生徒数が収容定員の3分の2未満となった場合には、存廃について検討します。

- ・ 高校と病院・診療所の有無が人口に与える影響は高校の方が大きいという結果！
→ 「平成25年度新しい離島振興施策に関する調査」国土交通省国土政策局
- ・ この調査は離島を対象に行われた調査ですが、高校の存在が地域の人口に与える影響の大きさが確認できます。

①病院・診療所の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	12,865	7,849	▲ 39.0%	▲ 0.2%
1 軒	86,824	53,152	▲ 38.8%	

②高校の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	114,029	69,319	▲ 39.2%	▲ 10.9%
1 校	86,299	61,885	▲ 28.3%	

(参考) 小学校の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	12,118	6,305	▲ 48.0%	▲ 12.0%
1 校	130,007	83,168	▲ 36.0%	

○ 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（2018年推計）

	2020	2030	2020→2030	減少率
南三陸町	11,317人	9,286人	▲2,031人	▲17.9%

もし、志津川高校が廃校になったら・・・ さらに▲10.9%

	2020	2030	2020→2030	減少率
南三陸町	11,317人	8,052人	▲3,265人	▲28.8%

10年間で人口はさらに▲1,234人となる可能性

(▲2,031人→▲3,265人)

- ・高校魅力化の取組による効果については、2019年11月22日に発表された三菱UFJリサーチ&コンサルティング政策研究レポート「島根県の高校魅力化の社会・経済効果の分析」により、具体的な数値として示されています。

<レポート概要>

■隠岐島前高校をケースとした高校魅力化の社会・経済効果の分析

- ・高校魅力化の取り組みを10年以上にわたり実践している、島根県立隠岐島前高等学校をケースとして、社会・経済効果の分析を行った。
- ・隠岐島前高校周辺の3町村において、**高校魅力化により地域の総人口は5%超増加**（2017年）したという結果が得られた。
- ・また、高校魅力化により**地域の消費額は3億円程度増加**（2017年）し、**歳入も1.5億円程度増加**（2017年）したという推計結果が得られた。
- ・高校魅力化に対する町村の財政負担を加味すると、**財政効果として年間3,000～4,000万円程度のプラス効果**が見いだされる。

高校魅力化に対する国の予算措置

- ・国も高校魅力化が地域に与える影響を認識し、予算措置しています。

高校生の地域留学の推進のための高校魅力化支援事業（内閣府地方創生推進室）

3年度概算決定額 **1.6億円**
 （令和2年度予算額 1.7億円の内数）

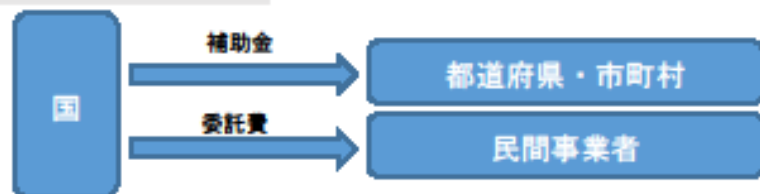
事業概要・目的

- 離島や中山間地域を中心に、地域の高校を存続させることが喫緊の課題となっています。高校の魅力化が総人口の5%超の増加やプラスの財政効果をもたらしたとの報告もあることから、高校を核とした地方創生の取組へのニーズは高まっています。
- 地域の将来を支える人材を育成する観点から、高校生の段階で地域への理解や愛着を深めることが重要ですが、とりわけ、高校生が育った地域と異なる地域の高校で一定期間を過ごす「地域留学」は、地方の魅力を知る機会として有効と考えられるとともに、将来的には「関係人口」として地域との多様かつ継続的な関わりを持つことが期待されます。
- このため、全国から高校生が集まるような高校の魅力化を行うことにより、高校生の「地域留学」を推進します。

事業イメージ・具体例

- 高校生の地域留学の推進やそれによる関係人口の創出・拡大を目指す地方公共団体は、全国から高校生が集まるような魅力化に取り組む高校、大学、企業、NPO等の地域の多様な主体とコンソーシアムを構築し、将来の自走も視野に、高校生の地域留学に関する中長期的な計画を策定します。
 当該計画のうち効果が見込まれるものについて、高校と地域をつなぐコーディネーターの配置等による高校魅力化のためのモデルとなる取組を、補助金により支援します。
- また、民間事業者への委託により、地域留学を円滑に進めるための仕組みや体制づくり等のサポートを行うとともに、地域留学を行う生徒の募集や生徒間・学校間の交流、好事例の横展開を図るためのイベントを実施し、更なる取組の促進や地域留学への機運醸成を図ります。

資金の流れ



期待される効果

- 高校生の段階での新たな人の流れを生み、将来的な地域の担い手の育成・確保とともに、関係人口の創出・拡大や移住へつなげます。
- 高校魅力化に関する地域の連携・協力体制を構築し、高校を核とした地域活性化や地方創生を実現します。

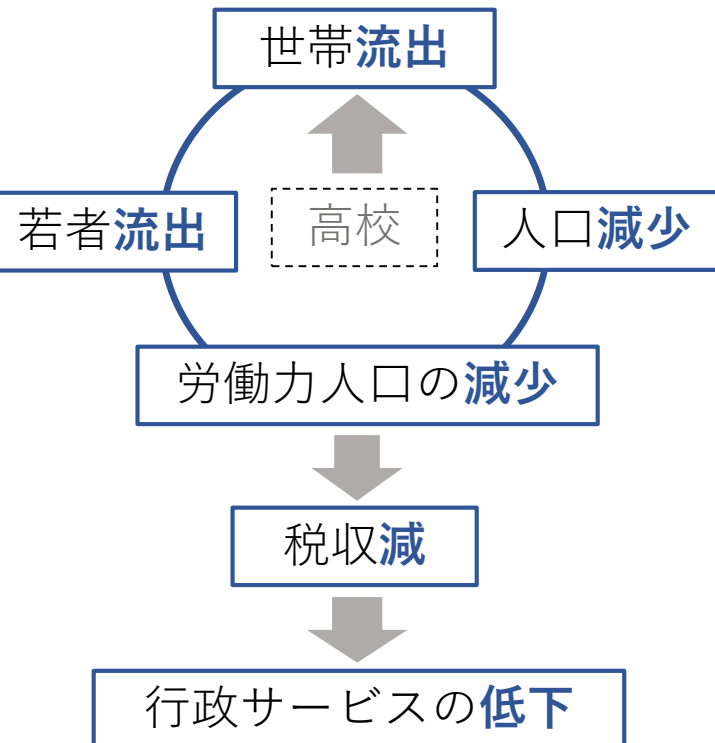
悪循環を好循環へ

町から高校がなくなった場合、中学卒業後、全ての生徒が町外の高校で学ぶことになります。遠方通学となるため、生徒・保護者への負担が増えます。

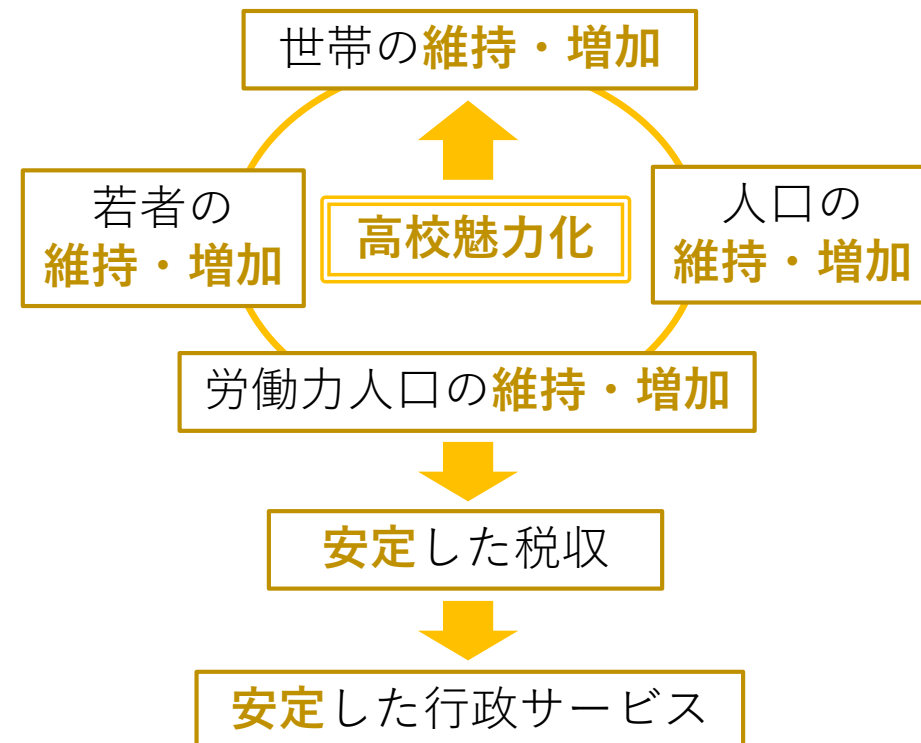
⇒ 世帯ごと転出する家庭が増加。教育費の負担増により、子どもを産むことへの不安が高まり、出生率が低下。

⇒ 全ての子どもが高校生活を町外で過ごすことになるため町への愛着が持てず、学校卒業後も町に戻らない可能性が高くなる。

悪循環



好循環



これまでの高校魅力化の歩み



<高校魅力化これまでの歩み>

- ✓平成28年11月 志津川高校魅力化推進懇談会発足
- ✓平成29年 6 月 公営塾「志翔学舎」開所
- ✓令和 元年 8 月 南三陸町高校魅力化協議会発足
※年度内に計7回の会議を実施
- ✓令和 2 年 3 月 第1期志津川高校魅力化構想を策定
宮城県教育庁へ町長から構想を提出
- ✓令和 2 年度 学校設定科目等検討部会でカリキュラム
を検討
全国募集・情報発信部会で県外生徒の受
入体制を検討

- ・ 第Ⅰ期志津川高校魅力化構想の策定にあたり、パブリックコメントを実施しました。
- ・ 南三陸町でこれまで策定した計画や構想のパブリックコメントの中では、過去最多の意見数をいただきました。（４４名の方から１２１件の意見）

＜パブリックコメントの実施＞

志津川高校の魅力化は南三陸町の未来に繋がっています！

高校生が「地域全体が学校」として学ぶことで、町への愛着心を持ち、卒業後、町外に出ても将来的に町に戻り、町を輝かせるようなそんな「人財」を志津川高校で地域の皆様とともに育てたいと考えました。

構想実現のためには、地域の皆様のご理解とご協力が必要です。
皆様からのたくさんのご意見をお待ちしております。

＜パブリックコメントの結果＞

	回答項目	人数	比率（％）
志津川高校 魅力化について	①積極的に推進すべき	４０	８７％
	②推進すべき	５	１１％
	③必要ない	１	２％

（注）選択肢を２つ回答いただいた方がいたため、回答人数と相違しています。

※パブリックコメントとは、町の基本的な政策などの意思決定の際に、町民等が意見を述べられる場を設け、その意見を反映させることによって、より良い行政を目指すものです。

- ・ 令和2年3月23日、魅力化協議会として「第1期志津川高校魅力化構想」を決定。
- ・ 令和2年3月26日、佐藤町長から宮城県教育庁へ「第1期志津川高校魅力化構想」を提出し、県教育庁へ構想実現への協力を求めました。

（第三種郵便物認可）

県教育庁に佐藤町長

松本次長は具現化検討約束

志津川高校 魅力化構想を提出



本校教育次長等に構想実現への協力を求める佐藤町長

南三陸町の佐藤町長が26日、県庁を訪れ、生徒数の減少が深刻な志津川高校の魅力向上に向けてまとめた「第1期志津川高校魅力化構想」を県教育庁に提出した。県外からの生徒募集など、約半年をかけて練り上げた提案に対し、教育庁側は、具現化できるかどうかを含めて新年度から検討を始める考えを示した。

東日本大震災の影響で生徒数の減少が深刻な志津川高校は、生徒数の減少に伴って、生徒数・男女比・T・A・町内中学校関係の志津川高校の存続に向けて、町は昨年8月、町高校魅力化協議会（会長・最知明副町長）を設け、町内唯一の高校で、人材育成に重要な役割を果たしている構想を手渡した。

佐藤町長は、県教育庁の松本文弘教育次長と面会し、2020年度から5年間の期間とする構想を提出した。

構想で定員は現行の普通科2学級・80人、核とする「地域創造」情報ビジネス科1学級・40人の維持を目標とし、これまで大半を占めてきた町内の子供の数が減っていくことから、22年度の実施を目処に、生徒の全国募集を掲げた。

コース編成では、普通科について、地域の減少が顕著な危機感を

示した上で、志津川高校の存在意義を強調し、全国募集など構想の概要を示し、「何とか前に進めるよう、県教委、学校の協力を依頼したい」と理解を求めた。

これに対し、松本次長は「これまで町から多くの支援を受けてきた」と述べ、高校と地域の関係が密着した関係であることに感謝し、全国募集については「入試は県の制度。県教委のほうでまずは検討したい」と述べた。そのほかの提案についても、地域の支援を受けながら検討していく考えを示した。

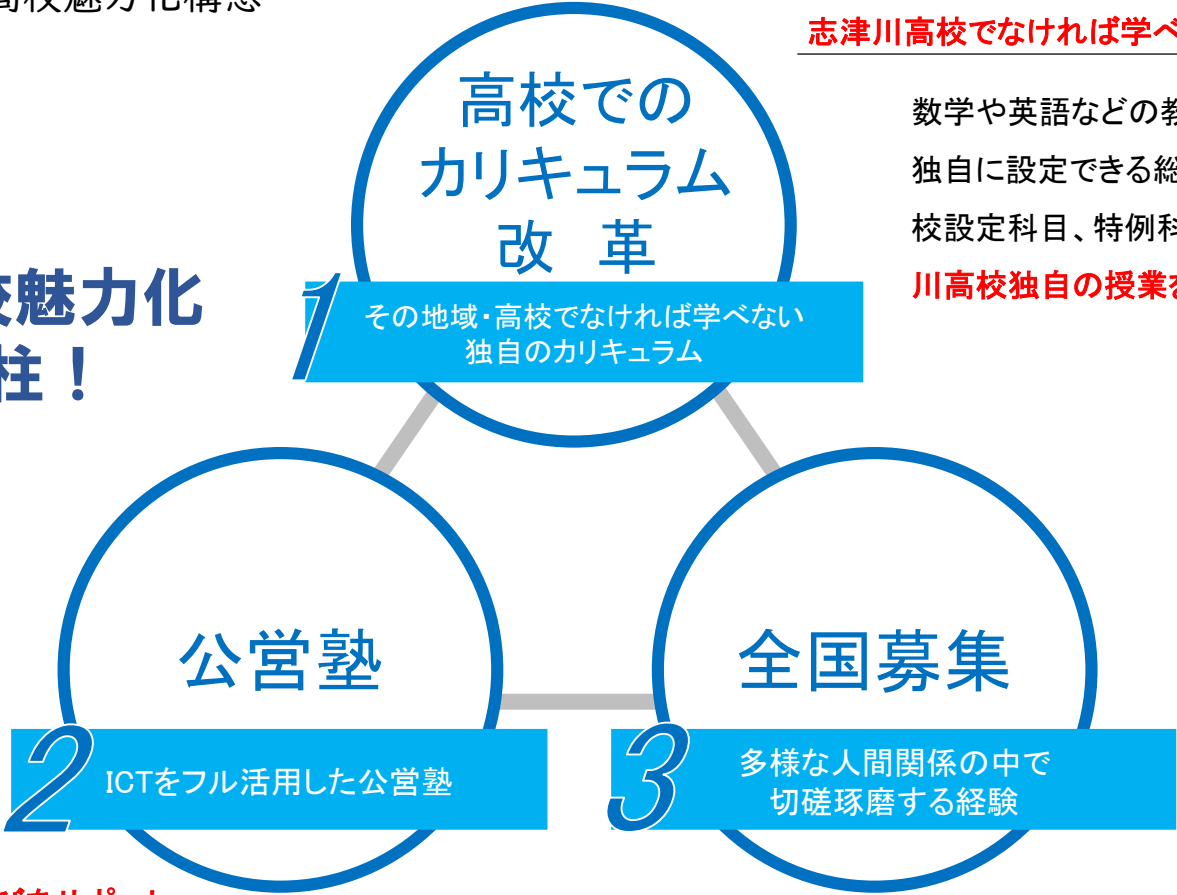
志津川高校魅力化

3本の柱



出典：第1期志津川高校魅力化構想

志津川高校魅力化 3本の柱！



志津川高校でなければ学べない独自のカリキュラム

数学や英語などの教科学習以外の高校が独自に設定できる総合的な探究の時間、学校設定科目、特例科目などを活用し、**志津川高校独自の授業を展開します。**

高校と連携し、生徒の学びをサポート

ICT教材等を活用し**生徒一人ひとりに合った学習支援**を行い、学力の向上に力を注ぎます。また、地域課題等を題材としたキャリア教育等を実施し、生徒が自分の夢や将来について理解を深める機会を提供します。

県内外から生徒を受け入れる体制づくり

全国各地から生徒が入学することで、**新たな価値観との出会いや新しい人間関係を構築**することができます。全国募集に向けて、寮や下宿等の受け入れ体制の整備を検討していきます。

目指す生徒像



目指す
生徒像

地域起業家精神を兼ね備えた『人財』

込めた
想い

南三陸町は、2011年3月東日本大震災で壊滅的な被害を受けました。地域資源を余すことなく循環させ、地域の自給力と持続性を養い、たとえ災害などの危機にあっても、高い回復力を発揮することができるレジリエンスの高いまちづくりに取り組んでいます。

東日本大震災後、多くの町外企業が町に関わりをもち、都市部から移住してくる若者が増えました。また、多様な人材が集まることで、移住者と町民が手を取り合い、新たな挑戦も数多くはじまっています。さらに、東日本大震災でご支援をいただいた台湾との交流も継続的に行われ、令和元年度には志津川高校と台湾嘉義県立竹崎高級中学が姉妹校締結を行いました。

豊富な地域資源と東日本大震災からの復興の中で集積された様々なリソースを活用し、地域の医療や福祉、教育、文化の担い手とともに、地域でコトを起こし、地域に新たな生業や事業、産業を創り出していける人材（＝地域起業家精神を兼ね備えた『人財』）へと育むために、高校3年間で身に付けたい「4つの成長スキル」を考えました。

この町で身につけた地域起業家精神は、将来どこへ行っても、どんな分野でも活躍できる人材に成長していく力になると考えています。

<地域起業家精神を兼ね備えた『人財』>

これからの未来、どのような人材が必要とされるでしょうか。

コロナウイルスにより、当たり前と思っていた生活や社会全体の価値観が今、劇的に変化しています。地域や社会がもつ課題を自ら見つけ出し、解決のためのアイデアを考え、様々な価値観を持つ仲間と協働し、新しい価値を創造する力を身につけて行く必要があります。

目指す生徒像「地域起業家精神を兼ね備えた人財」とは起業家のような発想や行動ができる新時代の思考やリーダーシップを持つ人財です。

目指す
生徒像

地域起業家精神を兼ね備えた『人財』

目指す生徒像に向けた4つの成長スキル

自己実現力

夢を見つけ、その夢に向かう過程ででてくる困難や挫折を乗り越えながら歩み続けることができるレジリエンスの高い人材を育みます。

コミュニケーション力

「正解が一つではない」不確実な社会において、自分の考え方をしっかり相手に伝え、相手の考えを知り、対話することができる力を育みます。

4つの 成長スキル

異文化理解力

生まれ育った環境等によって、多様な価値観があることを理解し、さまざまな異なる視点で物事を理解することができる力を育みます。

課題解決力

ミクロとマクロの視点を持ち、あらゆる課題に対して当事者意識をもって課題解決に取り組む力を育みます。

地域全体が学校

地域で学ぶ

『地域学』 『地域探究学』

～人間本来の本能的な学びへの挑戦～



日本の近代的な学校制度が開始され約150年・・・

学術的な研究や探究の中から生まれた英智を領域ごとに区分けして、学科や教科という形で効率的に教え授け、わずかな歴史的時間で、それまで人類が長い年月をかけても解決できなかったことさえも、学校の中でいとも簡単に学び取れるようになってきました。これまで学校が果たしてきた役割は絶大であると言えます。

しかし、今、このような学校の機能の限界性が突き付けられています。学びの効率性を追い求めすぎたため、人間が本来最も大事にすべき『本能的な学び』が疎かになっていると言われています。

『本能的な学び』とはなにか。

それは「日々の生活の中で生じる出来事や問題や課題を、家族や地域の人々と知恵を出し合い、話し合いを重ねることで、多くの失敗を繰り返しながらも解決に向け挑戦的に試行錯誤すること」です。

学校は学ぶところです。

最も魅力化すべきは「カリキュラム」であると考えています。

目指す生徒像、4つの成長スキルを身につけるためのカリキュラム…その答えが新たに創設した『地域学』『地域探究学』です。

単に教室で先生が教える、資料から学ぶということから、生徒が真に学ぶということへの転換、自分で考え、自分で試行錯誤する。そうすることで学びが生徒自身のものになります。

先行きの不透明な時代だからこそ、多様な人々と協力しながら、主体性を持って人生を切り開いていく力が重要になると考えます。

また、知識だけでなく、混沌とした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していく資質や能力が重要になります。

これからの時代、課題解決型学習や探究学習、いわゆる「答えのない学び」の重要性が注目されています。

では、カリキュラムをどのような内容にすれば良いのか。

学びの題材にせよ、示唆を与えてくれる大人の存在にせよ、**学校の中だけでは限界**があります。

『地域学』『地域探究学』は「地域を学ぶ」ではなく「地域で学ぶ」、「南三陸町を学びのフィールド、地域全体が学校」として学び考える新たな科目です。

生徒が学校から町に出て、町内の事業者や大人と接することで、人生観や仕事観に直接触れ、これまで知らなかった町の仕事や魅力に気づいたり、自分の狭い視野や経験だけで考えていた価値観が変わったり、新たな発見があったり・・・直接触れることで、仕事や進路に対する考え方や町への認識が変わるなど、キャリア教育としての絶大な意義と、「ふるさと南三陸」への想いを育むことに繋がります。血の通った**人間の繋がり**は、間違いなく子ども達の財産になるはずで

地域を学ぶではなく 『地域で学ぶ』

南三陸町を学ぶための学習ではなく、南三陸町を題材とし、生徒の行動や考え方の変容、課題設定力や課題解決力等、自己実現に必要な力を養うことが目的

学校内で完結しない 『地域全体が学校』の発想

南三陸町は「課題最先端地域」。課題解決型学習や探究学習を展開し、生き抜く力を育むには絶好の生きた教材が存在している。生徒を学校内に留め、すべてを教員がやろうとせず、「地域全体が学校」という発想に転換することが重要。

『内発的な問題意識』

探究学習にありがちな、生徒の形式的な参画になってはいけない。机上の探究だけではなく、フィールドに出る。そして、インターネットや本に答えを求めるのではなく、その先へ。インターネットや既存の常識に寄りかかるのではなく、内発的な問題意識を大切に。

- ・ 令和2年度、学校設定科目等検討部会で魅力的なカリキュラムについて議論。
- ・ 検討部会には、外部有識者にも参加してもらい、プロの目線から意見をもらう。
- ・ 魅力的なカリキュラムとなるよう志津川高校の先生方もカリキュラム作成に懸命に取り組み、新設科目「**地域学（2年生）**」、「**地域探究学（3年生）**」を創設。
- ・ **宮城県教育庁からも高い評価**を得ています。

地域創造系・学校設定科目（教科：商業）の新設 ※対象学科：普通科 地域創造系

地域学（2年生・年間70時間）
(1) 南三陸における各産業分野について、商業の視点から体系的・系統的に理解するとともに、マーケティング手法やコミュニケーション能力に関連する技術を身に付ける。
(2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的によりよく解決する力を身に付ける
(3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい地域社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

地域探究学（3年生・年間105時間）
(1) 商業の実務に即して課題解決の方法等を体系的・系統的に理解するとともに、地域の主導的な役割を果たし、必要な課題を解決する「企画力」や「実践力」を身に付ける。
(2) 地域に関する課題をビジネスに携わる者として解決策を探究し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的によりよく解決する力を身に付ける。
(3) 課題解決に向けた一連の過程の中で、課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスを通じた地域の持続可能な発展を目指し、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

県内唯一の公営塾

『志翔学舎』

～基礎から大学受験まで段階に応じた学習支援～



- ・平成29年6月、**県内初となる公営塾「志翔学舎」**を校内（旭朋会館）に開設。
- ・**生徒は全員無料で利用することが出来ます。**
- ・教員と連携し、**基礎から大学受験まで段階に応じた学習支援**を実施しています。

★志翔学舎を利用する生徒に対する支援★

- ・生徒達の希望進路実現のための段階に応じた学習支援
- ・ICTによる学習支援（スタディサプリ、Zoomオンライン）
- ・予備校講師や塾講師による講演
- ・軽食の提供
- ・奨学金情報の提供 など

★気軽に悩みを相談できる雰囲気づくり★

2020年度志翔学舎ロジックモデルアンケートより

- ・楽しく話せたり相談に乗ってくれたりとっても嬉しいです！これからも、いっぱい頼ることになると思うのでよろしくお願いします！
- ・いつも勉強を教えてくださいありがとうございます！！また、わからなかった所がありましたら教えてください！！
- ・数学をたくさん教えてくれたり、進路について考えてくれて本当にありがとうございました。



県内初！

県立高校の全国募集

～新たな価値観との出会い、新しい人間関係の構築～



なぜ、全国募集をするのか？

はじめに思いつくのは「生徒数の確保」だと思います。

「なぜ志津川高校の魅力化に取り組むのか？」で示したように、町内の子ども数は減ってきています。

町内の子ども達が全員、志津川高校に進学したとしても定員割れの状況です。

そういう意味では「生徒数の確保」は目的の一つであることは間違いありません。

では、全国募集により、**県外から生徒を迎え入れることの「その真の目的・意義」**はなにか。

南三陸町に限らず、地方では、生まれも育ちも似たような幼少期からほぼ変わらない狭い人間関係が高校卒業時まで続きます。

それは地域との繋がりを生み、安心して安定した地域環境の中で過ごすことが出来る反面、**子ども達の関係性は固定化・序列化**しやすく、また**価値観も同質化しやすい**とも言えます。

「あの子はこの性格」「私はこの役割」というように子ども達の関係性や役割が固定化し、**新たな個性の発揮や秘めた可能性に気づく機会が乏しくなってしまう**。

また、集団の中で切磋琢磨する経験が少なく、刺激や競争もあまりないため、**挑戦や成長しようという意欲が生まれにくい状況**にあるとも言えます。

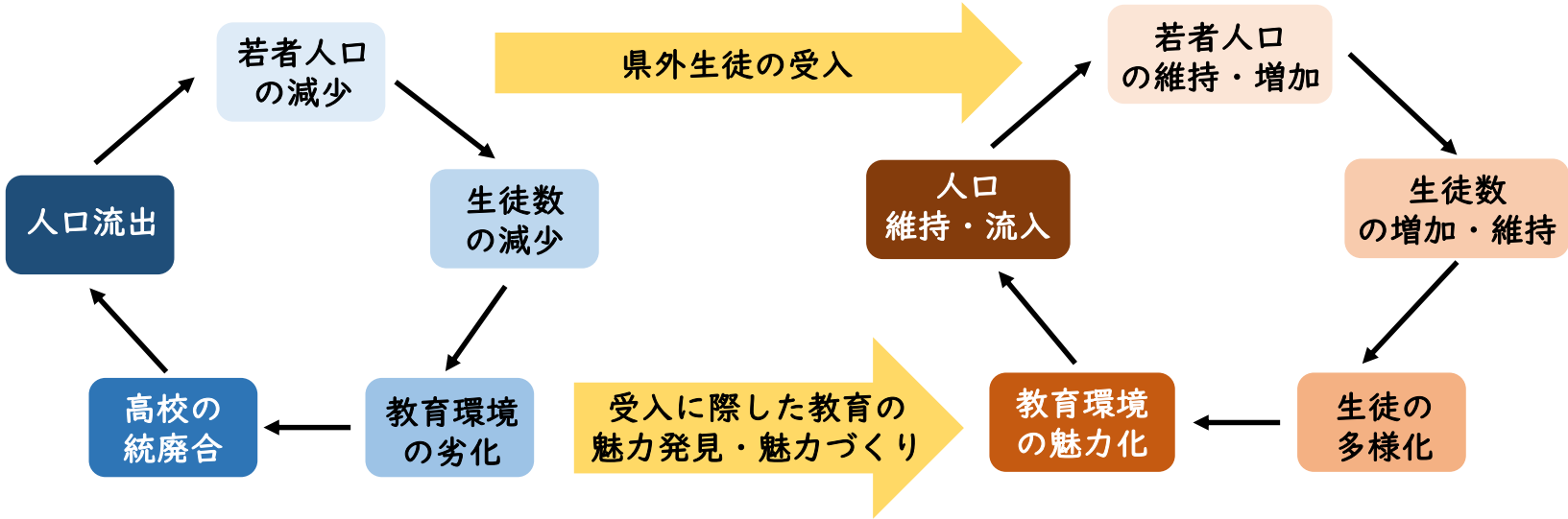
多感で価値観の広がりを見せる高校時代。

全国募集によって、県外から進学してくる生徒達によって、町内の子ども達は、『**新たな刺激**』『**新たな価値観との出会い**』『**新しい人間関係の構築**』、そして当たり前と思い見過ごしていた『**ふるさと南三陸の魅力**』に**気づく機会を得る**ことが出来ます。

昨今の激しい社会の変化に対応していくためには、「様々な人間関係」や「新たな価値観」「他の価値観を受け入れる寛容性」が必要です。

『**全国募集の真の目的・意義**』は、南三陸町の未来を担っていく子ども達が、激しい社会の変化に対応できる豊かな力を身につけ成長していくための機会を創り出すことであると考えます。

< 県外生徒の受入によって期待される効果 >



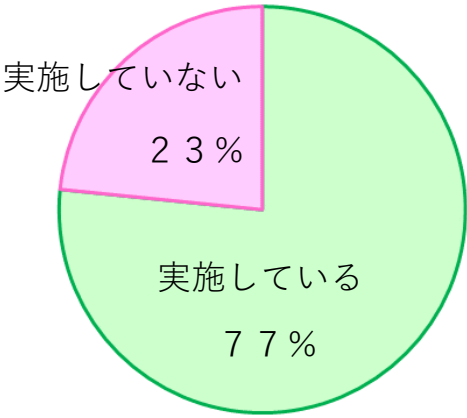
< 島根県立隠岐島前高等学校ホームページより抜粋 >

大阪から島前高校にきた島留学生は、島内で最も成績が高くテストで常に1番をとってきた島の生徒よりも上の成績をとりました。テストで負けたことが、島のその生徒の心に火をつけ、二人は良い意味でのライバルとして、学力を高めあいました。またそうした彼らの影響で、学級全体にも学習に向かう空気が生まれ、クラス全体の学力も伸び、その学年は約3割が国公立大学に入学するなど、今までにない進学実績となりました。

高校生が地元の観光プランを作成し競いあう全国大会「観光甲子園」に島前高校が挑戦した時のことです。「島の魅力を再発見して、新しい観光企画を考えよう」と始めたものの、地元の生徒達にとっては当たり前のことばかりで、地域資源の発掘や独自の切り口がなかなか打ち出せずに苦しんでいました。そこに島外から来た生徒が入ったことによって、島の生徒たちが見過ぎていたものたちに、次々とスポットライトが当たっていきました。異なる視点からの気づきは、島の生徒たちが地元の魅力を再発見することを後押ししてくれました。

- 全国的には、県立高校の全国募集については、既に多くの道府県で導入済です。
- 全国募集は宮城県教育庁の制度であり、現在、県教育庁で検討が進められています。

(1) 全国の実施状況



- 公立高校の全国募集は 47 都道府県中 36 道府県で導入済。
- ※未実施：宮城、青森、埼玉、千葉、富山、福井、愛知、佐賀、沖縄、大阪、東京
- 東北では 4 県で導入済、宮城県及び青森県で検討中。
- 宮城県における全国募集の導入時期については、検討状況から、令和 5 年度が想定されている。

(2) 東北の実施状況

県名	実施校数	学校名 (学科)		定員	県外枠
岩手	9 校	葛巻	(普通科)	80	-
		大迫	(普通科)	40	-
		水沢農業	(農業科学科)	40	-
		種市	(海洋開発科)	40	-
		平舘	(普通科)	40	4
			(家政科学科)	40	4
		住田	(普通科)	40	4
		遠野	(普通科)	160	3
		遠野緑峰	(生産技術科)	40	4
			(情報処理科)	40	4
		大槌	(普通科)	80	4
秋田	47校	前期選抜で全ての学校で実施 前期募集人数の10%			
山形	2 校	加茂水産	(海洋技術科)	40	志願者数の合計が定員を超えた場合に制限
			(海洋資源科)	40	
		遊佐	(総合学科)	40	
福島	4校	川口	(普通科)	40	-
		南会津	(普通科)	70	-
		只見	(普通科)	40	-
		ふたば未来学園	(総合学科)	160	-
青森	教育委員会において導入を検討中				

全国募集検討の論点整理

※宮城県高等学校入学者選抜審議会専門委員会における検討

(1) 想定される効果（全国における調査結果から）

①学校の魅力化

全国から生徒を集めるにあたり、学校自体の魅力化に取り組む契機となる。

②地方自治体の活性化

魅力の再発見や将来的な移住・定住、広報への期待

(2) 宮城県としての基本的な考え方

県立高校は県内の高校生のためのもの

- しかし、生徒数が県全体で減少傾向
- 再編を進める一方、生徒数を増加させる手立ても必要
- 県外の生徒に対しても門戸を開くことが解決策の一つになりうる。

「県内の生徒のためになるものかどうか？」＝県内生徒への有効性

- ① 多様な価値観に触れることで生徒の視野が広がる
- ② 意欲の高い県外生徒からの刺激
- ③ コミュニケーション能力の拡大
- ④ 充足率の低下を鈍化させ、学校の活力を維持

<懸念される事項と解決策>

懸念される事項	解決策
①県内生徒の入学機会を奪う可能性	<div>→</div> <div><div>・募集定員の充足率等による条件設定が考えられる。</div><div>・募集方法についても工夫が必要か。</div></div>
②価値観の異なる生徒との衝突等	<div>→</div> <div><div>・教員のサポート</div><div>・地域のサポート</div><div>・身元引受人との連携</div></div>

→

懸念される事項の解消により学びの質の維持に効果あり

専門委員会による検討を踏まえた高校入学者選抜審議会への報告

宮城県への導入	<div><div>・県内の生徒のためになるものであれば積極的に導入を検討しても良い。</div><div>・導入するとなれば、地域の要請があつてこそ。</div><div>・充足率が100%を満たしている学校は対象外とする。</div><div>・モデル校で一定期間実施をした上で検証し、本格導入するかどうかを検討してはどうか。</div></div>
今後の方向性	<div>宮城県立高等学校入学者選抜への全国募集の導入については、宮城県にとっての有効性や懸念される事項等について不確かな点も多いことから、モデル校による実施を提案する。モデル校において一定期間実施した上で効果等を検証し、本格導入の是非について再度検討していくことが必要である。</div> <div>検討にあたっては、調査・研究について、継続していく。</div>

＜県外生徒の受入体制について＞

専門委員会による検討を踏まえた高校入学者選抜審議会への報告

地域の 受入体制

- ・ **住環境や身元引受人など、受入体制を整える必要**がある。地域が責任を持つ。
- ・ 身体的、心理的な安全・安心の確保等、全面的なバックアップがあることが必須。
- ・ 金銭的な支援にも限界があるので、継続して全国募集を続けることが妥当かどうか、一定期間の継続見直しは必要。

懸念される 事項

- ・ **住環境の確保、身元引受人の確保が困難。**



南三陸町における受入体制をどうするか。

遠方からの生徒の受入体制については『**ホームステイ型（里親型）**』による受入体制を軸として、今後の検討を進めていくこととしております。

町内の一般家庭に寄宿することで、遠方生徒が「**第二のふるさと**」と感じてくれ、高校卒業後、将来的に町に戻って来てくれる可能性が高まると考えます。

また、生徒の食生活や生活習慣の乱れが起こらず、健康上の不安も少なくなります。

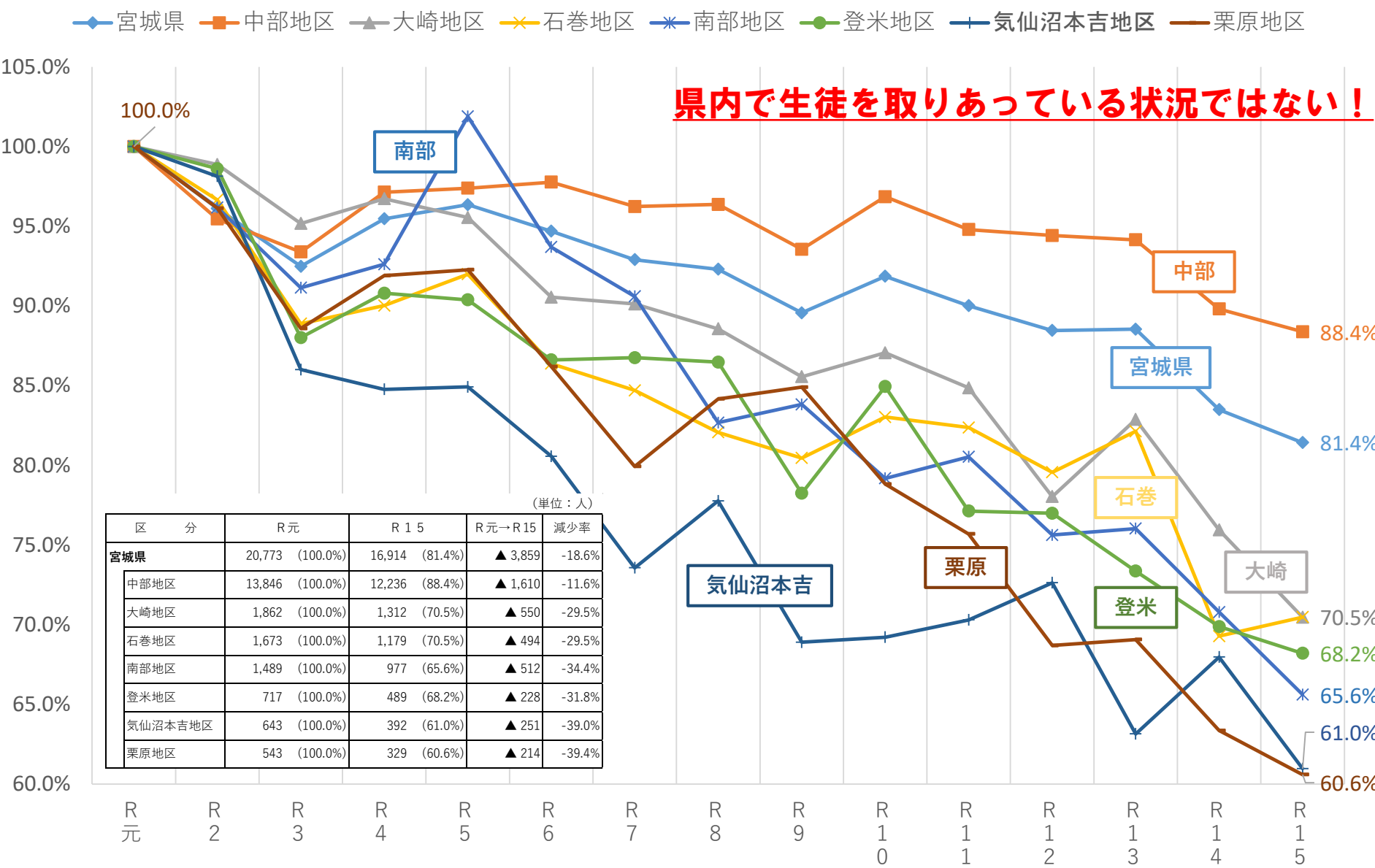
<受入体制の検討>

	寮	下宿	ホームステイ
メリット	<ul style="list-style-type: none">・ 同一場所に寄宿しているため健康管理等が行いやすい。・ 集団生活を通じて、社会性を育むことができる。	<ul style="list-style-type: none">・ 初期投資なし	<ul style="list-style-type: none">・ 町の家庭で暮らすことにより、生徒にとっての第2のふるさとになる可能性。・ 食生活、生活習慣の乱れが起こらず、健康上の不安が少ない。
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・ 初期投資が高い。・ 維持管理費が高い。・ 問題行動等で退寮した場合の受入先をどうするか。	<ul style="list-style-type: none">・ 食事等を生徒各自任せにした場合の健康上の不安・ 一人暮らしのため、非常時の対応が難しい・ 下宿先によって賃料が異なる	<ul style="list-style-type: none">・ ホームステイ先になんらかの事情で寄宿できなくなった場合の受入先をどうするか (※)

※ホームステイ先に寄宿できなくなった場合の対応

- ・ 町内の宿泊施設（民宿含む）に一時的に受け入れてもらうバックアップ体制を構築
- ・ 町内の複数の宿泊施設と町との間で連携協力に関する協定を結び、事案が発生した際、空室があるなど、受入可能な宿泊施設に一時的に受け入れてもらう。

・特に気仙沼本吉地区と栗原地区は減少幅が大きい（R元年度を100%としグラフ化）



【河北新報 2021（令和3年）2月19日（金曜日） みやぎ（16）】

全日制 初の1倍割れ

公立高入試出願 少子化の影響

県教委は18日、2021年度公立高入学者選抜の出願状況を発表した。全日制的募集定員1万4200人に対し、1万3685人が出願した。平均倍率は20年度比0・07減の0・96倍。少子化が進み、1倍を下回ったのは記録が残る1996年度以降、初めて。

宮城工情報技術 1.58倍

全日制69校133学科、定時制13校21学科の出願状況は表の通り。全日制的最高倍率は宮城工情報技術科が1・58倍。仙台工土木科が1・57倍、宮城一普通科が1・48倍と続いた。1倍割れは43校79学科。

高倍率の上位11学科のうち7学科が専門学科。県教委高校教育課の連藤浩課長は「将来の職業を意識しながら積極的に出願した」と分析した。

地区別では中部北が1・14倍、中部南が1・15倍。北部（0・73倍）、南部（0・76倍）、東部（0・78倍）は1倍を割った。

定時制は募集人数1000人に対し、361人が出願。平均倍率は0・36倍（20年度比0・013減）。
新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者となった受験生について、県教委は2週間の待機中でも追試験（3月10日か22日）や2次募集（同22日）の受験を認める方針に変更した。①検査で陰性②待機期間中と試験日が無症状③試験日は公共交通機関を利用しない④別室で受験⑤が条件。中学校を通じて受験校に申請する。
本試験の学力検査は3月4日、合格発表は16日午後3時。

南三陸高校への 校名変更について



令和5年度からの導入が想定される全国募集に合わせ、「志津川高等学校」から町名と合わせた「南三陸高等学校」への校名変更を宮城県教育庁へ要望することを検討しています。

冒頭にご説明させていただいたように、高校魅力化は学校と地域が総力を結集し取り組んでいく必要があります。町名と合わせた「南三陸高校」とすることで、学校と地域との一体感を高め、次の100年に向けて、新たな一步を踏み出していきたいと考えています。

宮城県ではこれまで、学校の統廃合や学科の再編を契機に校名変更が行われてきました。通常であれば校名変更は困難であると考えられますが、新たな取り組みである「全国募集」の開始は、県に対し校名変更を要望する絶好の機会であると考えています。この全国募集開始のタイミングを逃すと、今後の校名変更は極めて困難であることが予想されます。

「志津川高校」や「志高」の愛称に愛着を持たれている町民の方も大勢いらっしゃるかと思います。

「志津川」の地名がついた高校がなくなってしまうのは寂しいという思いを持たれる方もおられるかと思います。

先ほど、「全国募集」でご説明させていただきましたように、町外から進学してくる生徒達によって、町内の子ども達は新たな刺激や新たな価値観、新しい人間関係の構築、町内の様々な魅力に気づく機会が得られることになります。

全国募集に向け、知名度の高い「南三陸」を使用した校名とすることで、子ども達の成長の機会が得られる可能性は高くなると考えます。

校名変更には、様々なご意見があるかと思いますが、南三陸高等学校への校名変更は、南三陸町の未来を担っていく子ども達の豊かな成長に繋がっていくと考えています。

今後、志津川高校同窓会総会でもお時間を頂戴し、「南三陸高等学校」への校名変更のご説明をさせていただくこととしております。

志津川高校同窓会からのご理解をいただけたら、町から宮城県教育庁に対し、「南三陸高等学校」への校名変更を要望させていただきたいと思っております。

校名変更につきまして、ご理解賜りますようお願い致します。

今後の主な検討事項



(１) カリキュラム関係

- ・地域学、地域探究学の詳細設計

(２) 全国募集関係

- ・里親バンク（仮称）
→受入家庭の募集、掘り起こし
- ・受入家庭に宿泊できなくなった場合のバックアップ体制の構築
→町内の宿泊業者・宿泊施設と町の間で連携協力を検討
- ・町からの財政支援
→受入家庭、県外生徒保護者への財政支援等を検討

(３) 地域の魅力関係

- ・夏休み等を利用し、町内の魅力を体験できるプログラムの検討・組成

(４) 女子硬式野球クラブチームの発足関係

- ・高校との調整、指導者の確保、運営体制の構築（財源含む）

(５) 広報関係

- ・町内、県内、県外への効果的な広報を検討

おわりに



- ✓ 若者は地域の未来です！
- ✓ 高校こそ地域づくりの本丸です！
- ✓ 単に高校が存在すれば良いわけではありません。
- ✓ 活気のある学校、魅力ある学校として、
地域と共に存続していくことに意味があります。

単なる「存続」ではなく、おらほの高校を

『魅力化』

していきます！

学校のみが主語となる『**I**』の発想から、

皆が主語となる『**W e**』の発想へ！！

高校魅力化への地域の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

ご清聴ありがとうございました！